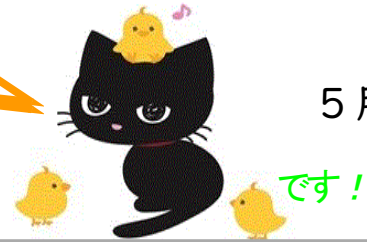




図書館だより

5月号



「事実は小説より奇なり」



校長 濱島 幸治

還暦を迎える男性が、ロッキングチェアに腰掛け、本を読んでいる。
そのタイトルは”DEATH”。日一日と確実に”死”に向かっていることを
自覚し、残された人生をどう生きるかヒントを得ようと手に取っているかどうか
は定かではない。では、この男性の青年期にタイムスリップしてみよう。

彼の青年期はいわゆるバブルの時代。日本で起こった資産価値上昇と好景気
のなかで彼は何を考え、行動していたのか。とにかく面倒なことが大嫌いで、
本を読むことは面倒なことと考えていた彼が本を手にするはずがあるろうか。学生時代に図書館で過ごした
時間は0、本屋に立ち寄りたりすることもなく、本と関わる時間は皆無であった。手に取った本とい
えば、教科書や参考書ぐらいのものであった彼が、今本を読んでいるのは明らかな事実である。

何が彼を本に向かわせたのか。大学の教養課程で論理学を専攻したことで彼の中で何かが変わった。
”論理”面白い。彼は理学部で数学を専攻していたが、純粋数学を専攻せずに論理言語の”Prolog”
を研究するゼミに進む。”Prolog”は論理プログラム言語の一つで該当分野で最もよく知られて
いる論理型言語の代表格であり、主に、人工知能研究や計算言語学との関連性を持つ。論理的に物事
を考えることに彼はハマった。学生時代は相変わらず本を読むことはなかったが、ある程度年を重ね少
しだけ時間にゆとりができた頃から、1年に4、5冊程度ではあるが、本を手にするようになった。

今彼は、”DEATH”の中で何に気づき、何を考え、今後どのような行動をとるのだろうか？

さて、この話はフィクションorノンフィクション、いずれであろうか。



「濱島文庫」へのお誘い

図書館入り口のカウンター

上に、濱島校長先生の本棚から
みなさんへ手に取って欲しい本
が並んでいるコーナーがあります。



1冊は校長先生の本棚からの提供の本。
貸し出しが出来るように、もう1冊同じ本
が購入してあります。これから、少しずつ
増えていく予定です。

みなさん、ぜひ見に来て、読んでみてく
ださい。ちょっと難しそうに思うかもしれ
ませんが、読んだ人の感想は…

『思っていたより楽しく読めた。』

『書店で見る本ですが、内容は高校生に
も分かる本だなと発見しました。』

さて、あなたの感想は？

伊集院高校図書館の人気の本と作家は？

R4.4.1～R5.3.31の貸し出しランキングです。

(ライトノベルを除く)

★作家ランキング★

- 1位 知念 実希人
- 2位 ヨシタケシンスケ
- 3位 住野 よる
- 4位 瀬尾 まいこ
- 5位 有川 浩(ひろ)



★貸し出し数ランキング★

- 1位 「ひとつむぎの手」 知念 実希人著
- 2位 「そしてバトンは渡された」 瀬尾 まいこ著
- 3位 「りんごかもしれない」 ヨシタケシンスケ著
- 4位 「ムゲンのi (アイ)」 知念 実希人著
- 5位 「かにみそ」 倉狩 聡著